

港区基本計画・芝地区版計画書（素案）区民参画組織提言の反映状況

芝地区総合支所協働推進課

提言番号	分野／事業名	提言	提言の概要	所管課	反映結果				提言への対応
					地域事業に反映	主な取組に反映	既存事業で対応	反映できない	
1	かがやくまち	安全・安心な歩行空間の確保	道路の段差解消や不特定多数の人が集まる場などのバリアフリー化、違法置き看板対策、歩行者と自転車の通行空間の分離、通行不可の場所などの情報提供を進めるなど、安全な歩行空間の確保が求められます。 また、ながらスマホ等、自転車や歩行者の通行マナーの改善に向け警察と協力するなど、啓発活動の強化が必要です。	まちづくり課 地域交通課		○			主な取組「安全で人にやさしい公共空間の整備」で対応します。 安全で快適な歩行環境を確保するため、道路の段差解消等を推進していくほか、地域住民や事業者、道路管理者、警察等と協働し、違法駐車・駐輪の排除や放置防止をはじめ、自転車通行マナー向上のための普及・啓発、道路障害物の撤去などに努めます。 また、誰もが快適に利用できる公共施設づくりをめざし、視覚障害者用誘導ブロックの連続化やベンチの設置を行うとともに、公園などの水飲み・手洗場等を高齢者、障害者等が利用しやすいように改善を進めます。 学校や警察署、交通安全協会との連携を深めた交通安全への取組を推進し、タクシー業界や区内事業者に対しても協力を呼びかけ、啓発を図ります。また、自転車利用者の増加に伴い、自転車安全利用を含めた体験型の交通安全教育や講習などにより、区民や通勤・通学者などに交通安全意識の高揚を図ります。
2	かがやくまち	災害別の対応策の検討と自助のための防災に関する情報提供の強化	災害別に周辺企業や公園等不特定多数の人が集まる場所と連携した帰宅困難者（通勤・通学者・買い物客、観光客）対策や、安否確認のための環境整備の検討が求められます。また、災害時に自分の命を守る行動をとるため、防災に関する情報（防災知識、セミナー、避難場所等）の提供が必要です。	協働推進課	○				地域事業「芝地区防災力向上プロジェクト」で対応します。 区内に「駅周辺滞留者対策推進協議会」を9協議会設置しており、防災課と各総合支所、地域の事業者が連携しながら災害時における帰宅困難者への情報提供について、ルールを検討しています。また、帰宅困難者の受入れ先となる一時滞在施設についても、事業所や集客施設と協定を締結し、環境整備を進めています。芝地区総合支所では、事業者を対象とした防災セミナーを実施することで、事業者における防災対策を支援し、一斉帰宅の抑制や事業者と地域が連携した「共助」の取組を促進しています。さらに、防災展、防災アドバイザー派遣や出前講座を実施するとともに、SNSやホームページ、掲示板等様々な媒体を活用して、防災に関する知識や情報を周知します。
3	かがやくまち	区民ニーズを踏まえた公園の利用方法の検討	公園の利用方法について、区民のニーズを把握し、区民ニーズに応じた公園の利用方法の検討が求められます。	まちづくり課		○			主な取組「安全で人にやさしい公共空間の整備」で対応します。 道路や公園等の維持管理に当たっては、アドプト制度の活用など、施設に関わりがある多様な主体との協働を進め、地域住民及び利用者の意向等を踏まえながら管理します。公園や児童遊園は、指定管理者制度の導入により、民間事業者が持つノウハウや専門性を活用し、利用者や地域と連携したイベントなどを実施します。区民ニーズに応えられるよう質の高いサービスを提供するとともに、周辺の区民や事業者の参加協力を得ながら、公園のにぎわいを創出していきます。
4	かがやくまち	プラスチックごみを含めたごみ全体の減量意識の向上、まちの緑化と美化の推進	新たな環境問題として注目されているプラスチックごみの減量に向けた取組の強化を進めるとともに、繁華街を含めごみの捨て方のルールを徹底するなど、マナー啓発を推進することが必要です。 また、快適な公共空間をつくるために、みなとタバコルールを見直し、受動喫煙対策を強化することが求められます。 さらに、まち並みの景観向上のため、緑化の推進が必要です。	協働推進課	○				地域事業「エコ芝教室」、主な取組「地域の環境美化の推進」、「緑の保全と緑化の推進」で対応します。 ●脱プラスチック・ごみ減量をテーマに、生活に取り入れやすい取組を紹介するワークショップ等を芝地区区民参画組織との協働で開催します。子どもから高齢者まで誰でも簡単に始められる脱プラスチック生活について学習し、環境問題に対する意識を高めます。 ●「みなとタバコルール」を着実に推進するため、東京都受動喫煙防止条例等の施行による屋内原則禁煙化に伴う影響を的確に把握しながら、事業者等に対する啓発物の配布や「みなとタバコルール」に基づいた指導・啓発を更に充実させます。また、より受動喫煙が起こりにくい屋内喫煙場所・屋外密閉型喫煙場所の整備を積極的に推進します。 ●景観や環境に配慮したまちづくりを進めるため、民間施設の屋上・壁面緑化に対する補助や保護樹木・樹林指定及び維持管理に対する補助などの支援を行います。また、街路樹を良好な状態で維持し、街路樹への草花の植え付けを進めるなど道路緑化を推進するとともに、区立公園での草花の植え付けや園芸講座などにより、区民、事業者に対して緑化の普及・啓発に取り組めます。

提言番号	分野／事業名	提言	提言の概要	所管課	反映結果				提言への対応
					地域事業に反映	主な取組に反映	既存事業で対応	反映できない	
5	にぎわうまち	既存コミュニティの改革や新しいコミュニティの形成支援	ご近所付き合いの活性化や時代に合ったコミュニティを形成するため、既存のコミュニティにおいて、新たな活動の誘発や町会・自治会への多様なツールを用いた情報発信の支援、参加しやすいイベントの企画などが必要です。 また、新しいコミュニティを形成しやすくするため、多様な主体が交流できる機会づくりなどの支援が求められます。	協働推進課	○				地域事業「ご近所イノベーション学校」、「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」、「芝・ネイチャー大学校」、主な取組「地域コミュニティ活動の支援・多様な交流の促進」、「全国の自治体との連携」で対応します。 ●人と人、組織と組織をつなぐ人財育成講座の実施や地域の誰もが集い、交流できる拠点「芝の家」「ご近所ラボ新橋」の運営によりご近所づきあいを活性化させるとともに、多様なコミュニティの形成を支援します。 ●コロナ禍の現在においても、感染防止に留意しながら、これまでと同様に顔の見える直接的な支援を継続するとともに、芝地区公式SNSを活用した町会・自治会の活動情報の発信等を行います。
6	にぎわうまち	多様な交流の推進	町会・自治会同士、事業者や大使館と町会・自治会、外国人と町会・自治会など、地域内の各種団体同士が地区全体で取り組めるコンテンツを通して交流していくことが求められます。 また、他自治体との連携・交流を深める全国連携の取組をさらに充実させることが必要です。地域内の交流を深め活気あふれるまちにすることや、外部から人を呼び込み経済効果を生み出すことなど、多様な交流を進めることが必要です。	管理課 協働推進課	○				●芝地区を舞台に地域住民、事業者、商店会、大学等が参加する「ふれ愛まつりだ、芝地区！」や多世代交流を目的とした地域事業「芝BeeBee'sプロジェクト」などにより、多様な主体が交流できる機会の拡大に努めます。 ●茨城県稲敷郡阿見町や福島県いわき市に加え、「芝の家」での交流を契機に新たに連携を開始した山形県置賜地域、芝地区の竹芝エリアと関わりの深い東京都島しょ地域など、芝地区独自の全国連携の取組を拡大していきます。
7	にぎわうまち	愛着の持てるまちづくりと地域資源の発信力の強化	より多くの人々が地域に愛着を持つためには、歴史、アートなどの地域資源を地域の魅力として発信していくことが必要です。 また、地域の魅力を伝えるイベントの企画や多様な媒体を用いた情報発信により、発信力を強化していくことが必要です。	管理課 協働推進課	○				地域事業「芝 歴史・文化・交流アカデミー」、「芝de Meet The Art」、「芝BeeBee'sプロジェクト」、主な取組「地域情報の発信・共有」で対応します。 より多くの人々に芝地区への愛着を持ってもらうため、地域のことをよく知る区民等との協働により、芝地区の歴史・文化、アートや養蜂事業など芝地区の魅力にふれる場や機会を創出し、芝地区公式SNSや区ホームページ等で積極的に発信します。
8	はぐくむまち	全ての子どもたちがのびのびと健やかに育つ環境づくり	一人ひとりの子どもの状況に関わらず全ての子どもたちがのびのびと健やかに成長できる環境づくりを進めていくことが必要です。子どもの貧困対策をはじめ、子どもの食事難や孤食などの問題に対応するため、子ども食堂のような地域コミュニティを中心に、地域全体で子どもたちを育む取組が求められています。	協働推進課 管理課 子ども家庭課	○		○		地域事業「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」、「芝・ネイチャー大学校」、主な取組「子育て支援施設等の充実」等で対応します。 ●多世代が集う地域交流拠点「芝の家」は、放課後の子どもの居場所・遊び場として親しまれています。保育園や子ども中高生プラザ、学童クラブなどの施設・運営の充実を図るとともに、これら子育て支援施設が開催する地域懇談会等との情報共有を行うなど、地域で子どもを見守り、育てる体制を一層強化します。 ●全国の自治体との連携による自然体験など、多様な体験の機会を提供することで、子どもの健やかな育ちを支援します。 ●区では子ども食堂ネットワークを発足し、子ども食堂を運営する個人や団体に対して活動の支援等を行い、子どもの孤食解消及び保護者支援の促進を図っています。
9	はぐくむまち	若い人から高齢者まで健康でいきいきと暮らせる環境づくり	若い人から高齢者まで地域でいきいきと暮らせるように、いきがいとなる趣味の拡充や健康的な生活を送るためのアドバイスの提供、子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい施設の整備などが求められます。 また、家に引きこもりがちな高齢者や一人暮らしの高齢者、デイサービスを利用する高齢者など、多様な生活形態やニーズに合わせた高齢者施策を引き続き推進していくことが必要です。	区民課 管理課	○				地域事業「地域で支え合う～アロマネットワーク」、主な取組「高齢者が自分らしくいきいきと暮らせるための支援の充実」で対応します。 閉じこもりがちな高齢者や孤立しがちな介護家族等の交流の場づくりのため、アロマセラピーを活用した地域高齢者支え合い講座を開催します。 地域の高齢者が健康でいきいきとした生活を続けられるよう、いきいきプラザでは「高齢者のいきがいづくり、学びの場」、「介護予防、健康づくりの場」、「ふれあい、コミュニティ活動の場」として、各種事業を行っています。

提言番号	分野／事業名	提言	提言の概要	所管課	反映結果				提言への対応
					地域事業に反映	主な取組に反映	既存事業で対応	反映できない	
10	はぐくむまち	誰もが気軽に学び楽しめる環境づくり	心のバリアフリーやLGBTへの対応について正しい理解を深めるなど、様々な状況・世代の人々が多様性を認め合い交流することができる機会を充実させ、誰もが気軽に学び楽しめる環境をつくる必要があります。	管理課 障害者福祉課 人権・男女平等参画担当	○		○		地域事業「芝de Meet The Art」等で対応します。 ●「芝de Meet The Art」では、障害者週間記念事業ポスターの表彰作品をトランスボックスアートとしてまちに展示するなど、アートを通じて多様な人が共生し、活動することができる地域づくりをめざしています。 ●次期障害者計画の取組に「心のバリアフリーの普及」を掲げ、障害者週間記念事業の開催などイベントを通じて、障害者に対する心のバリアフリーの普及に努めます。 ●第3次港区男女平等参画行動計画において「性的マイノリティに関する意識啓発」を事業に掲げ、多様な性のあり方や性的マイノリティの方への理解を深め、偏見や差別をなくすための意識啓発に取り組んでいます。心のバリアフリー及び性的マイノリティへの理解を念頭に芝地区版計画書に計上した取組を推進します。
11	芝地区事業者向け防災セミナー	受講希望者が全員受講できるような対応策の検討	・事業実施体制の強化 需要の多いセミナーであるため、実施回数を増やす等、全ての参加希望者が受講できるように事業実施体制を充実させるべきである。 ・動画・ネット配信等の検討 受講できなかった事業者のため、セミナーの内容を収録したDVDを配布したり、オンラインで動画を配信すべきである。 ・効果測定の実施 セミナーのレベルアップのため、アンケートやヒアリング等による効果測定が必要である。 ・事業目標の設定 測定した効果に基づき、BCPの策定あるいはブラッシュアップのどちらかに重点を置くべきである。また、策定率〇%といった具体的な目標を設定することが必要である。	協働推進課	○				地域事業「芝地区防災力向上プロジェクト」で実施する事業者を対象とした防災セミナーをオンライン化し、希望する全ての事業者が受講できる体制を構築します。BCP（事業継続計画）の策定を行ったか（又は着手したか）を問う追跡調査を実施することで、策定を促すとともにセミナーの効果を測り、BCPの策定に着手した事業者数の向上を事業の目標とします。
12		BCP未策定事業者の策定意欲を喚起する仕掛けづくりの検討	・策定事例集の紹介等の検討 未策定事業者に対して参考となるような具体的なBCPの内容を例示することが必要である。 ・BCP策定の必要性を認識する呼びかけの検討 未策定事業者に対してBCP策定の必要性を認識してもらうようなPRをするべき。	協働推進課	○				セミナー募集時にチラシ、ホームページ、SNS等でBCP策定の意義やメリットを紹介し、応募につなげます。また、延べ300社以上が参加している「芝地区クリーンキャンペーン」など、事業者と連携して行っている既存の取組を最大限活用した周知を行います。 カリキュラムの中で参考となる実際の策定事例を紹介するなど策定意欲を喚起することで、実効性の高いセミナーとします。
13		「事業者の責務」が伝わるようなプログラムの検討	企業トップを対象としたセミナーの企画や、区の提唱する「事業者の責務」をプログラムに盛り込み、「事業者の責務」として取り組むべきであることを伝えることが必要である。	協働推進課	○				一斉帰宅の抑制や必要物資の備蓄に加え、防災住民組織との連携を図り、地域における自主的な防災対策活動への協力等、港区防災対策基本条例で定める「事業者の責務」が伝わり、適切に実行されるようにセミナーのカリキュラムに取り入れます。
14	地域×事業者 芝の防災底力向上プロジェクト	具体的な目標の設定	意見交換会によって町会・自治会と事業者の共助関係の構築が期待される。 関係を構築した先に、防災訓練の実施や避難所運営マニュアルの作成など具体的な目標を設定することが必要である。	協働推進課	○				町会・自治会等地域団体と事業者が一体となった防災訓練の実施を目標とし、地域における共助の取組を強化します。 また、事業者向け防災セミナーをとおして、地域と協力して防災対策に取り組む「事業者の責務」を浸透させるとともに、町会・自治会や事業者を対象とした出前講座を積極的に実施することで事業者との共助関係を強化します。出前講座や防災訓練の機会を捉え、防災ハンドブックやハザードマップなどを活用し、防災意識を高めます。
15		事業対象者の拡大の検討	・町会・自治会と事業者の協力関係の構築及び事業対象者の拡大 「町会・自治会と事業者」、「事業者と事業者」、「町会・自治会と就業者」 ・協働関係のルール、システムづくり 地域の町会・自治会・事業者・就業者が協働関係を構築していくための仕組みづくりを検討する必要がある。	協働推進課	○				

提言番号	分野／事業名	提言	提言の概要	所管課	反映結果				提言への対応
					地域事業に反映	主な取組に反映	既存事業で対応	反映できない	
16	地域×事業者 芝の防災底力 向上プロジェクト	対象者が参加したくなる 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 取組対象へ参加を促すインセンティブの検討 対象となる参加者を増やすために、町会費への補助や事業者への区の施設利用の優遇等のインセンティブを検討すべきである。 取組対象の町会・自治会の活性化の促進 災害時の共助を円滑にするため、町会・自治会自身の活性化が必要である。 	協働推進課	○				町会・自治会等と連携し、地域における自主的な防災対策活動に協力する事業者の取組を優良事例として芝地区公式SNSや区ホームページで紹介することで活動意欲を喚起します。
17	もっと地域を 豊かにする芝 地区戦略会議	多様な世代が興味を持ち、参加しやすいテーマ 設定の検討	<ul style="list-style-type: none"> ニーズに合わせたテーマ設定 多様な世代が関心を持ち、参加しやすくするため、現状のニーズに合わせて取組テーマを整理する必要がある。 部会の見直し 芝会議の各部会の活動の違いがわかりにくい。また、現状の社会課題と取組内容にずれが出てきているため、部会の見直しを検討する必要がある。 ターゲットの拡大 芝地区は労働人口が多いが、取組の対象が高齢者か子どもであることが多いため、多様な世代、特に若者世代へターゲットの拡大を検討すべきである。 将来像の設定 現状や課題を解決するだけでは活動に限界があるため、将来像を設定し、地区の未来について考えるような活動をすべきである。 	協働推進課	○				芝会議を構成する3つの各部会が、区との協働により、海洋プラスチックごみ等の環境問題をテーマとした事業や、オンラインを活用した地域コミュニティづくり、芝地区の歴史・文化の継承を目指す事業など、昼間人口が多い芝地区の特性を踏まえつつ、ニーズや地域課題を的確に捉えた取組を推進します。
18		活動が多くの人目に留 まるような工夫	<ul style="list-style-type: none"> インターネット等の活用による参加者募集の検討 若い人や活動に興味を持った人が参加しやすく、かつ応募しやすくするために、インターネット等を活用して、募集方法を改善することが必要である。 活動内容を見える化し、参加者の増加を図る 閉鎖的なイメージを払拭し、多くの人が参加しやすくなるよう、各部会の取組内容を区のホームページで公開したり、部会ごとにホームページやSNSを立ち上げ情報発信する等の工夫が必要である。 	協働推進課	○				区ホームページから応募を受け付けられるようにするとともに、多様な世代の興味・関心を喚起するため、芝地区公式SNS及び区ホームページにおいて各部会の活動を積極的に発信するほか、各部会の自主的な情報発信を支援し、芝会議としての発信力を強化します。
19	ご近所イノ ベーション学 校	地区内参加者の増加を図 る	<ul style="list-style-type: none"> 地区内からの参加者を増やすことが必要 芝地区内住民の参加意識が低い状況にあるため、これまでの参加者の実態を調査し、どのような立場の人が講座に興味を持っているのか把握すべきである。ホームページやSNSを活用して講座の案内や参加募集をするなど、講座や活動の内容をわかりやすく伝えることで地区内住民の参加意識を向上させ、参加者を増やすことが必要である。また、昼間人口が圧倒的に多い芝地区では、在勤・在学者の参加者を増やすことも必要である。 	協働推進課	○				ご近所イノベータ養成講座は地域に関わる一人ひとりが「やりたいことをまちにつなげる」技法を学ぶ講座で、修了生は地域と人をつなぐ「人財」として芝地区で活躍することを期待されています。これまでの応募者・参加者の年齢層や応募動機を分析し、特に講座に対する興味・関心が高いと思われる30代～50代を中心にダイレクトメールを送付し、地区内居住者の応募を増やします。また、講座の活動、内容を写真付きでわかりやすく芝地区公式SNSや区ホームページで紹介します。更新頻度を高め、鮮度の高い情報発信を継続することで在勤・在学者を含む多くの人の関心を喚起します。
20		活動内容の可視化による 地域へのPR	講座の修了生の活動が見えにくく、活動に興味を持ってもらうためには、WEBやSNS等を積極的に活用して修了生の活動内容を可視化する等、わかりやすい情報発信が必要である。	協働推進課	○				ご近所イノベータとして、自主的な活動を継続している講座修了生の活動を芝地区公式SNS及び区ホームページで紹介します。修了生の好事例を積極的に発信することで応募者の増加にもつなげます。また、地域交流拠点「芝の家」や「ご近所ラボ新橋」を通じて、広報やオンラインイベントの実施支援等、活動を継続しやすい環境を整備します。このほか、ご近所イノベータ養成講座のフェイスブックページを運営し、修了生同士の継続的なつながりを支援します。
21		芝地区内で活動するご近 所イノベータ（修了生） への支援	芝地区内で活動する修了生に対し、地区内で活動できる機会を増やし、活動の輪を広げてもらうために、修了生のニーズに応じた支援をする必要がある。また、修了生同士のつながりができるような支援が必要である。	協働推進課	○				

提言番号	分野／事業名	提言	提言の概要	所管課	反映結果				提言への対応
					地域事業に反映	主な取組に反映	既存事業で対応	反映できない	
22		時代に合ったコミュニティづくりを行える実験の場であるべき	今の時代に合った新しいコミュニティ形成のあり方を模索していくために、その実験の場であることが望ましい。地域交流拠点の役割や必要性をわかりやすく示し、効果測定をして、今後の活用の方向性を検討する必要がある。また、地域での居場所をつくり、安心して暮らせる地域づくりの推進とともに、交流の場を増やすことが求められる。	協働推進課	○				「芝の家」、「ご近所ラボ新橋」では、オンラインを積極的に活用したイベント等を実施し、これまでつながりのなかった人たちが、その場になくても集い、交流できる取組を進めています。また、「芝の家」を見学に訪れた縁で始まった山形県置賜地域との連携を深め、協働事業を実施するなど、芝地区の関係人口を増やす取組も行っています。引き続き、時代に合ったコミュニティのあり方を模索する実験の場として積極的な取組を推進します。事業の効果測定については、利用者の年齢層、性別だけでなく、新規利用者数を集計するとともに、利用者アンケートを実施し、地域コミュニティへの影響等を分析していきます。
23	地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト	地域の人々が施設に気軽に来訪できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・開室時間の延長 一月の3分の1は休室日であり、開室日の開室時間も午前～夕方までと短いため、平日夜間と休日に地域の人々が利用しやすい環境をつくる必要がある。 ・施設の多様な利用方法の検討 利用者を含めて施設の使い方を話し合うなど、居住者や地域コミュニティ団体が利用しやすい多様な利用方法を検討すべきである。 ・入りやすい入口や間口の整備 芝の家、ご近所ラボ新橋ともに入口がわかりにくいので、誰もが入りやすくなるような工夫が必要である。 ・活動内容が見える化し、参加しやすい工夫の検討 新規利用者には、既存の利用者の属性や活動内容が見えず敷居が高い印象があるため、参加しやすいイベントの企画や活動のPRをするなど敷居を下げる工夫が必要である。 	協働推進課	○				新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮しながらの開室となりますが、平日昼間に訪れることが難しい方にも来場してもらうため、月2回程度の夜間開室と土曜日の開室を継続します。また、地域に開かれた施設として多くの方に利用してもらうため、町会・自治会等の地域団体や利用者の意見を取り入れながら、施設の利用方法を検討していきます。さらに、新規利用者が訪れやすくするために、参加しやすいイベントの実施や活動内容の積極的なPRに加え、施設に入りやすくするための案内表示を充実させます。
24		芝地区の市民文化としてアートを定着させる	<ul style="list-style-type: none"> ・アート文化の定着化 アートに親しむ事業があることはまち全体の豊かさにつながる。事業のきっかけである落書き対策にも取り組みつつ幅を広げて、アートが市民文化として根付くような長期的な事業展開を検討すべきである。 ・テーマ性を持った事業展開 アートによるまちづくりを推進していく上でのテーマを設定するとともに、通りやエリアごとに統一感を持った作品展示を行うなどの配慮が必要である。 	管理課	○				事業所が多い芝地区の特性を生かし、アートの取組を通じた企業CSRのネットワーク化を図るなど、多くの人々が事業に関わることができる体制づくりを進めることで、地域でのアート文化の定着を図ります。また、地域の子供たちがアートを体験する機会を創出し、社会参加意識や地域への愛着を育むとともに、トランスボックス（地上配電機器）アートの設置箇所を順次拡大し、多様な人が様々な場所でアートにふれられる環境づくりに取り組みます。
25	芝de Meet The Art	多くの人々が関わることのできる取組の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々が関わることのできるターゲットの設定 企業等の参加を誘発したり、作者を子ども・障がい者に限定せず幅広く募ったりするなど、アートの定義を広げ、多くの人々が関わるようにターゲットの拡大を検討すべきである。 ・多様な人々の参加の検討、活動への支援 子ども、障がい者、プロのアーティストに限らず、企業、その他いろいろな人がアートに取り組める環境づくりが必要である。 ・展示場所の拡大 現在は展示場所が少ないので、パブリックスペースなど展示場所を拡大すべきである。 	管理課	○				事業所が多い芝地区の特性を生かし、アートの取組を通じた企業CSRのネットワーク化を図るなど、多くの人々が事業に関わることができる体制づくりを進めることで、地域でのアート文化の定着を図ります。また、地域の子供たちがアートを体験する機会を創出し、社会参加意識や地域への愛着を育むとともに、トランスボックス（地上配電機器）アートの設置箇所を順次拡大し、多様な人が様々な場所でアートにふれられる環境づくりに取り組みます。
26		作品が多くの人々の目に触れるような情報提供の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に関する情報提供の充実 作品の展示場所等の情報提供や事業のPR強化により、作品が多くの人々の目に触れるようにすべきである。また、作者紹介等の情報があると作品に対する理解が深まるのではないかと。 	管理課	○				作品が多くの人々の目に触れるように、芝地区公式SNSや区ホームページ、芝地区地域情報誌等で積極的に情報を発信します。

提言番号	分野／事業名	提言	提言の概要	所管課	反映結果				提言への対応
					地域事業に反映	主な取組に反映	既存事業で対応	反映できない	
27	アロマからはじまる	対象者の拡大（ボランティア養成講座）	<ul style="list-style-type: none"> ・受講対象者の拡大 ハンドマッサージ講座に興味を持った幅広い世代の人が参加できるように、受講対象となる範囲を拡大すべきである。 ・男性参加者を増やす工夫 受講者の約9割が女性という実態があるため、男性が興味を持ちやすい内容を取り入れるなど、参加しやすくなるような工夫が必要である。 	区民課	○				<p>ハンドマッサージボランティア養成講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮しながら今後の再開や男性が参加しやすい工夫などについて検討していきます。</p> <p>これまで、高齢者施設等でボランティアを継続していた約40名の講座修了生は、新型コロナウイルス感染症の影響で、現在は活動が困難な状況ではありますが、引き続き活動状況を把握するとともに、活動場所の拡大やスキルアップにつながる講座など、継続的な支援を行っていきます。</p>
28		多様な取組内容の検討（ボランティア養成講座）	<ul style="list-style-type: none"> ・受講後のフォローアップが必要 受講後の活動人数を増やすため、受講者の追跡調査を行い、活動状況を把握するとともに、受講後のフォローアップなど、区からの支援が必要である。 ・多様な取組内容の検討 受講対象者ごとに講座の内容を変えるなど、アロマハンドマッサージに限らず多様な取組を取り入れるべきである。 	区民課	○				
29		セーフティネット構築のための取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り講座の対象者の拡大 高齢者数は年々増加しているため、日頃から高齢者と関わることの多い事業者を中心に、見守り講座の対象者の拡大が必要である。 ・セーフティネットの拡大 セーフティネットの構築に着目した事業内容のため、まだ見守りを実施していない企業や様々な専門職の方々と協力し、高齢者のセーフティネットを総合的に検討し、拡大すべきである。 	区民課	○				
30	高齢者の買い物支援	現在の方法による事業の必要性の再検討	対象地域周辺は開発が進み、日用品を扱う店舗も増加傾向にあり、買い物環境は好転している。また、家事援助サービスなど類似のサービスもあり、この事業の需要が低下しているため、事業の必要性について再検討すべきである。	まちづくり課	○				浜松町・大門エリア、虎ノ門エリアで生鮮食品を購入できる店が少なかったため、高齢者を対象に神明・虎ノ門の各いきいきプラザで野菜などの販売を行っていましたが、再開発が進み日用品の買い物環境が整ったことから、事業を終了します。
31		既存の民間サービスを利用できない層への新しい支援方法の検討	実際に外に出て買い物に行けない人、インターネットを使えない人への支援が今後必要となるため、現在のやり方以外の新たな支援方法を検討する必要がある。	まちづくり課 高齢者支援課			○		次期「高齢者保健福祉計画」の取組に「生活支援に関連する地域活動情報の収集・提供」を掲げ、新たに、高齢者の生活支援に関する情報を一元化するシステムを構築し、配送サービスがある店舗や困りごとを相談できる場所などの情報を提供できる仕組みづくりを進めています。併せて、介護保険や社会福祉協議会のおむすびサービスによる買い物代行や、安価で配達する店舗や生活協同組合での購入方法を紹介するなど、引き続き、高齢者の買い物を支援します。
32		高齢者の買い物支援以外の物産展の継続	物産展は買い物支援を必要とする人以外の利用も多い。買い物支援の枠組みではなく、分離独立したイベントとして実施を継続することが望ましい。	まちづくり課 管理課			○		

提言番号	分野／事業名	提言	提言の概要	所管課	反映結果				提言への対応
					地域事業に反映	主な取組に反映	既存事業で対応	反映できない	
33	芝BeeBee'sプロジェクト	多世代交流以外の多様な可能性の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・既存目標の多世代交流に加えて、自然や環境の学習を加える事業の趣旨や目的に適った実績が出ており、多世代交流にとどまらずさらなる事業の展開が求められる。ミツバチの飼育による自然体験学習だけでなく、自然や環境（特に芝地区）について考えることを目標に加えるべきである。 ・ミツバチの育成から緑化活動まで活動内容を拡大 ミツバチ育成だけでなく、ミツバチの習性などを学び、ミツバチに必要な草木や花を増やしていくことで、芝地区の緑化活動につなげていくべきである。 ・はちみつの商品化 事業の副産物であるはちみつを地域イベント等で提供するだけでなく、参加者の募集に用いたり、はちみつの収穫量を増やし、芝地区内の事業者と提携して商品化すべきである。他自治体の類似プロジェクトと比べて良い点を取り入れるべきである。	協働推進課	○				事業の目的である多世代交流の促進にとどまらず、瓶詰ハチミツの販売会や地区内の事業者を対象とした活用アイデアの募集など、副産物であるハチミツの活用を拡大し、芝地区の新たな魅力発信につなげます。また、福祉施設との連携、ミツバチの生態などをテーマとした自然・環境学習や、ハチミツの購入者にミツバチが好む花の種を配布する緑化促進活動など、養蜂を通じて様々な目的を達成しながら事業を展開します。
34		学校と連携し、特に子どもの参加者の増加を図る	子どもたちが生き物を育てることや、自然との関わりを学ぶのに良い事業であるため、学校と連携し、子どもの参加者を増やすことが必要である。また、より多くの人に参加してもらい、目的の世代間交流を促進するため、活動を広くPRし多くの人に活動を知ってもらうべきである。	協働推進課	○				区民協働養蜂チーム「芝BeeBee's」のメンバーが案内役となる「養蜂見学会」を随時開催し、小学校や保育園等、子どもが団体で参加しやすい体制を構築します。また、芝地区公式SNSや区ホームページなどにより、見学会やはちみつ採取の様子、ミツバチの状況等を積極的に発信して活動をPRします。
35	芝・ネイチャー大学校	活動内容の拡充の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊体験による農業・漁業への理解の深化 農業や漁業についての理解を一層深めるため、農家や漁師のお宅で宿泊を伴う体験を検討すべきである。 ・他自治体との連携による相互交流の推進 農業体験や漁業体験で連携している自治体の子どもたちを港区に招き、お互いのまちを紹介し合うなど、相互交流を進めるべきである。 ・林業体験の追加を検討 港区で経験できない豊かな自然環境での体験として、林業体験の追加を検討すべきである。種まきから収穫までのワンセットになっている現在の農業体験中心のプログラムでは、漁業、林業を含めた全ての体験を行うことは難しいので、漁業、林業は単発プログラムで実施するなどし、体験できる業態を広げるべきである。	協働推進課	○			新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮しながらの事業実施となりますが、連携先自治体との交流をさらに深め、将来的に農家や漁師のお宅での宿泊体験や現地の子どもの間での交流に発展できるよう検討していきます。また、従来の農作業体験に加え、動植物の観察や林業（枝打ち）体験等を実施するなどプログラムの強化を図ります。	
36		身近な場所での自然学習の実施可能性の検討	港区区内でも自然に触れることのできる場所はあるため、公園や東京湾といった身近な場所で自然学習を行うプログラムを検討すべきである。	協働推進課	○				地域事業「芝BeeBee'sプロジェクト」と連携して、参加者を対象に、身近な自然環境について改めて考える機会を創出します。
37		参加機会の拡大	参加要件の再検討、募集案内先の拡大、募集時期の配慮など、多様な立場の人が事業に参加できるよう検討すべきである。また、毎年抽選となっていることから、定員の増枠も検討すべきである。	協働推進課	○				学校行事等と重ならない日程での開催や募集時期に十分な配慮をするとともに、区立小中学校以外（私学に通う芝地区の子ども）からも応募いただけるよう、芝地区公式SNS等を活用した積極的な情報発信を行います。また、毎年抽選となっていることから、初めて参加する方を優先するほか、段階的な定員の増枠なども検討していきます。

新型コロナウイルス感染症を踏まえた意見聴取の反映状況

1	オンラインの積極的活用による事業の実施	管理課 協働推進課	○				区民参画会議や事業説明会におけるオンラインの導入をはじめ、芝の家、ご近所ラボ新橋での、オンラインイベントの開催など、密な状態を避け、安心して多くの方が参加できる形態で事業を実施します。
2	安全・安心を最優先としつつも、事業の中止という極端な判断ではなく、少人数・小規模にしたり、実施形態を工夫するなど、開催に向けた努力をお願いしたい。	まちづくり課 区民課	○				新型コロナウイルスが地域に深刻な影響を及ぼしている状況にあっても、「参画と協働」の取組を一層推進し、まちの元気と活力を取り戻していきます。区民とのコミュニケーションや地域でのイベント開催などにおける配慮や手法の変革に、柔軟な発想で果敢に取り組みます。